

情報交差点・心と心の交わり

あじまへ

大宜味村教育委員会

電話 44-3006

FAX 44-3020

祝 2連覇!! 大宜味結 Guts



第 137 回沖縄県学童軟式野球大会北部支部北・迎土名ブロック大会優勝!!

7月5日（日）、11日（土）、12日（日）に開催された第137回沖縄県学童軟式野球大会北部支部北・迎土名ブロック大会に大宜味結 Guts が出場し、優勝！2月の大会に続き、見事2連覇を収めました！

コロナウイルスの影響を受け、家で素振りや体作りをするなど個々の練習や近所に住む選手同士で少人数で集まって練習をするなど自粛期間中も自分たちで考えて練習を行い、チーム全体での練習が再開となった6月からは守備やバッティング、走塁など基本的な練習を徹底してきた結 Guts のメンバー。

今回の大会も2連覇する気持ちで、出場する選手だけではなくコーチや応援も一丸となって挑みました。試合中も声を掛けあい、お互いのいいプレーに喜ぶ選手たち。

基本を忘れずに練習し、みんなが団結してチーム1つとなって試合に臨めたことが2連覇という大成業に繋がりました。

また、殊勲選手賞（最優秀選手賞）に6年生の花田琉空くん、打撃賞に6年生の金城翼希くんと5年生の福地飛楽くんが選ばれ、個々の活躍も光りました。

日頃の練習の成果を発揮し、選手一人一人の力だけでなくチーム力も上がってきた結 Guts。次回の大会を目前に6年生の平良規一くんは「バッティング力、チーム力を強化して北部大会、県大会ともに優勝して、最強のチームになる！」と抱負を語りました。

次の大会は8月8日に行われる北部選手権大会です。この大会の上位2チームが県大会に進むことができます。県大会優勝目指して頑張れ結 Guts!!

新型コロナに負けない！ 大宜味村社協よりこども園と大宜味小にマスク贈呈



大宜味村社会福祉協議会より、7月14日（火）おおぎみこども園に200枚、21日大宜味小に220枚のマスクが寄贈されました。

社協では生活支援コーディネーターの橋本望未さんを中心に地域づくりとして、地域の人たちを繋げる活動を行っており、その一環として各区長さんを通して6月から村民にマスクの提供を呼び掛けていました。今回村民からの寄付で集まったマスクを子ども達にも活用してほしいと寄贈に至りました。

こども園ではでいご組の子ども達が代表となってマスクの贈呈式が行われました。会長の島田哲夫さんから「みなさん

はコロナウイルスって知っていますか？」と問いかけられると「わかるよ」、「知っているよ」と次々に声があがり、「コロナにならないようにするためには何が大切かな？」という質問には、「手洗い、うがい、マスク！」と元気よく応えました。マスクを受け取った際には「ありがとうございます。みんなで大切に使います！」と大きな声でお礼も言えました。こども園ではお昼ごはんも各教室を利用するなど、密にならないよう分散保育を行っています。集会や避難訓練などどうしても全体で集まらなければいけない時もあり、その際に4歳児、5歳児がマスクを着用するそうです。

大宜味小では新垣郁代校長先生が代表してマスクを受け取り「学校では遊ぶ時や体育の時間はマスクを外している。落としてしまったり、忘れてしまったりする子もいる。マスクを忘れるととても気にしてしまい泣いてしまう子もいる。学校にマスクがあるととても安心」と喜びました。



村民の皆さまありがとうございました！！

ゲストを招いて道徳の授業 吉田春子先生中学生に思いを伝える…

7月14日（火）、大宜味中学校にゲストティーチャーとして津波区の吉田春子先生が招かれ、3年生の道徳の授業が行われました。

授業の中で春子先生は自分や教え子たちがした失敗や成功など数々の経験談を話し、「失敗しても得られるものはある」、常に「素直で精一杯やる」、「自分のことは自分で決めて自分でやるしかない」こと大切さを教えてくれました。

また生徒たちには「1年生の頃できていたこと」、「1年生でしかできなかったこと」、「1年生の頃、しなければならなかったこと」を挙



げてもらい、そこから「3年生になった今、何をしなければならぬか」を一人一人に考えさせました。

授業を終え、大城優音さんは「精一杯という言葉がとても心に響いた。最後の年を充実させるよう勉強も運動も頑張ろうと思った」と感想を残しました。春子先生は「十数年ぶりの本格的な授業。生徒たちの姿勢に感極まるものがあった」と笑顔で話してくれました。

心のこもった素敵な授業、ありがとうございました。

※6月に児童生徒にパンをプレゼントした春子先生（詳細は7月号）。保護者の方々からお礼の電話があり、とても嬉しかったそうです。



7月7日（火）、おおぎみこども園で「ながれぼしきらきらにこにこまつり」が行われました。

ながれぼしきらきらにこにこまつりは子どもたちが考えたタイトル。たくさん出た案を組み合わせこの名前になりました。お知らせのポスターや横幕も子ども達の力作



♪司会もでいご組のお兄さん、お姉さんがつとめ、みんなで作る七夕のまつりが始まりました。

悦子先生の紙芝居を真剣に聞いたり、竹子先生の三線に合わせて大きな声で歌ったりもったいないばあさんの曲に合わせてみんなで踊ったり楽しく過ごしました。

七夕の願ごとの発表ではたんぽぽ、すみれ、ちゅーりっぷ組は先生たちが「たくさん食べて、たくさん遊んで、たくさん寝て元気になりたい」など子ども達が元気に育つようお願いごとを発表。ひまわり組さんとゆうな組さんはクラスみんなの



お願いを子ども達が前に出て発表しました。一番上のでいご組さんは「宇宙に行きたい」、「絵が上手になりたい」、「速く走れるようになりたい」、「世界平和」など一人一人が自分のお願いをハキハキと発表。みんなのお願いが空に届くように祈りを込めました。

最後には星の応援団のぴっかりんから踊りや歌で楽しませてくれたみんなへのお手紙と星のかけらのプレゼントが…。

ぴっかりんは「何事にも挑戦し、一生懸命頑張ることで願いがかないます」とみんなに伝えました。みんなのお願いごとが叶うよう頑張ってください。



～教育委員会 会議だより～

大宜味村教育委員会では毎月第4木曜日に教育委員会会議を行い、教育に関する方針の決定、教育委員会規則の制定やその他重要な事項の決定を行っています。ただし、緊急の場合は臨時会を招集して審議を行います。教育委員会会議だよりでは、会議で決定した事項をお知らせして参ります。

第6回 教育委員会議 令和2年6月25日（木）午後2時開催

＜審議事項＞

議案第23号 大宜味村学校給食センター運営委員の委嘱について

大宜味村学校給食センター運営委員が決定しました。

運営委員は各学校長、こども園園長、小中PTSA会長、区長会長、教育課長、学校栄養職員、給食センター所長の計9名で構成されています。なお運営委員の主な役割は、給食費の査定、児童生徒の給食指導や関係保護者への啓蒙指導等です。

New Face 教育委員会新メンバー



森田順子さん（津波）

7月1日（水）より、臨時的任用職員として森田順子さんが社会教育係に配属されました。

体育行事や文化行事等で村民のみなさんに関わる機会があると思います。よろしくお願いいたします。

趣味：家庭菜園

一言：行事等で見かけた際は、気軽に声を掛けてください。よろしくお願いいたします。

図書室情報 No.12 2020年（令和2年）8月 大宜味村図書室（旧大宜味小学校2F：村史編纂係内） 大宜味村字大宜味1番地 0980-44-3009

利用状況累計

- 来室者数…のべ520人
- 貸出冊数…996冊
- 登録者数…66人

7月の統計（7/27まで）

- 来室者数…のべ35人
- 貸出冊数…86冊

★現在の蔵書数…4,885冊+県立図書館の本500冊

8月図書室カレンダー 閉室日：

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					



新本紹介 ※8月下旬入荷予定



リクエスト本



寄贈本



※来室の際は、マスクの着用、手指の消毒にご協力ください。

令和2年度地域教育懇談会

7月2日（木）、喜如嘉公民館（喜如嘉住区）、大宜味公民館（大宜味住区）、塩屋公民館（塩屋住区）、津波公民館（津波住区）において令和2年度地域教育懇談会が開催されました。

地域教育懇談会は行政、学校、家庭・地域が集まり、それぞれの取組状況を交換し、日常活動へつなげること、村の諸教育課題の解決に向けて話し合いを行うことを目的として行っています。

今回は学校からの学力向上推進の取組について説明を行った後、「コロナ休業明けの子ども達との関わり方について」をテーマに各住区グループに分かれて話し合いを行いました。

各住区で挙げられた現状と課題、解決策や要望を抜粋して紹介します。今回挙げた課題や要望を踏まえ、教区委員会、学校で話し合い、家庭・地域と協力しながら課題解決に向け取り組んでいきたいと思ひます。



喜如嘉 参加者 21名

現状・課題

- ・休校中はだらだら生活、生活のリズムが崩れ、遅刻することも
- ・冷水機が使えない 水筒の水だけでは午後までもたない（小）
- ・マスク着用のストレス（暑い、息苦しい）

解決策・要望

- ・できることを増やし、モチベーションをあげる「ほめる！」
- ・冷水機が使えないのあれば、補充用の製氷機があるといい
- ・3密を避ける工夫をしながら外で遊んでストレス発散
- ・生徒同士の話し合いで不安や心配事を和らげる場面を多く作る



大宜味 参加者 27名

現状・課題

- ・学力の遅れが気になる 第2波に向けタブレットの導入、オンライン授業の実施をお願いしたい
- ・コロナの影響か、登校しぶりが見られる
- ・ゲーム遊びが増えてきている

解決策・要望

- ・学校・家庭・地域とも早く新しい生活様式を身につけ安心できる環境を作る必要がある 間違った認識や偏見を生まないように
- ・今の状況だからこそ学校と家庭が積極的に連絡を取り合う

現状・課題

- ・学力の遅れを取り戻すことはできないか
- ・第2波が来た時の対応
- ・生活リズムの崩れ

解決策・要望

- ・進度よりストレスにならない授業 理解度の定着を大事に（小）
- ・中3は入試に向けてポイントを押さえた取組、授業の進度より子ども達の心のケアを重視
- ・学校、家庭でコロナへの正しい知識を説明、理解させる



塩屋 参加者 34名

現状・課題

- ・登校時体調不良や登校しぶりなどメンタルにダメージが見られる
- ・児童生徒に1人1台タブレットがあってもいいのでは
- ・授業が急ぎ過ぎではないか もう少しゆっくりしてほしい

解決策・要望

- ・今は学びの連続が途切れている状態 8月くらいまではゆっくり幼稚園の遊びを取り入れた指導をしてはどうか（小）
- ・無理をさせず様子をみながら登校させて
- ・学校（先生方）も焦らず取り組んでいく



津波 参加者 20名

村史編さんだより

第112号 2020年8月1日 大宜味村村史編纂係44-3009



語り継ごう災害の記憶

近年、地球規模の異常気象や地震、津波等による甚大な被害を伝えるニュースが絶えることはありません。

先月の九州地方を襲った豪雨でも“これまで経験した事のない雨量”と報じられ、早めの“命を守る行動”を徹底して呼びかけていたにも関わらず、目を覆うような被害がリアルタイムで伝えられました。

本村でも、昭和34年10月に発生したシャーロット台風による土砂災害により、**38名の村民が生き埋めになり尊い命が奪われ、重症16人、埋没家屋26棟、橋や畑が流されるという未曾有の被害を経験しています。**多くの命、財産、絆を一瞬で破壊する災害を最小限に食い止めるには、山を背に暮らす私達は、この記憶を子々孫々に語り継ぎ、常日頃から災害に対する危機意識を持って、備えを万全にすることが何よりも重要です。

大宜味村を襲ったシャーロット台風の爪跡



津波部落内地滑り住家埋没



大兼久部落内地滑り住家埋没



饒波橋梁決壊流失



田嘉里部落内地滑り住家埋没



押川村道崩落修復作業



村葬

昭和34年（1959年）10月16日～17日、沖縄本島とその周辺離島、並びに、宮古島が暴風雨「台風18号シャーロット」に襲われ、沖縄本島での46名の死亡者中、本村だけで38名の死亡者を出す未曾有の大惨事となった。本村一帯の降雨量が最も多かった—というのが直接の原因ともされたが、このシャーロット台風による惨事は、一面では山岳と海に迫られる「本村の地理的条件」の厳しさを物語るものであった。（大宜味村史・通史）

『杣山制度論』を読む 2

仲吉朝助著・明治三七（一九〇四）年

第一章 総論（二〇号より続き）

杣山の起原並に何故に之を杣山と名づけたるやは、今日之を徴するに足るべき書類なきが故に、之を説明すること能わざれども、其の沿革を案するに、古昔に在りては琉球藩は別に之が保護、管理に注意せず従て其の営林の方法は一に杣山所在地方人民に放任したるが如くなるも、中古に至り農業の進歩に伴い天然の森林を開拓して林地の面積を減少し、漸く木材の欠乏を感じしを以て始めて高奉行所を設け、之に農事山林の監督をなさしめたるは、則ち杣山制度の濫觴（らんしょう…始まり）なり。ついで享保二十年（清の雍正十三年）に山奉行所を設置し、更に元文元年（乾隆元年）より杣山境界検査に着手して此事業は数年を経て結了せり。而して当時杣山の地籍に編入したるは全く農作地に適せざる所を擇（たく）みたるが如し。

一、平地大之所は嶺地之差次に諸木能生立申事に候得ども右之地方は田畠仕用に従往古山敷被召除置（杣山法式帳）

尚、元文二年（乾隆二年）に杣山法式帳及び山奉行所規模帳、延享四年（乾隆十二年）に杣山方式帳仕次、杣山造林方法（別に表題なきを以て便宜上新名称を付せり）、寛延元年（乾隆十三年）に杣山総計、宝暦元年（乾隆十六年）に山奉行所規模仕次帳、山奉行所公事帳を規定して始めて杣山の地盤を確定し、杣山地方人民をして官庁保護、監督の下に於て其の管理せる杣山の造林及び保護をなさしめ、以て其の林産物に対する所在地方人民の義務を定め、併せて其の林役権を認むるに至れり。

備考

杣山法式帳 造林、保護、利用の概要を規定せり

山奉行所規模帳 山奉行所の庶務を規定せる外に杣山の管理営林の方法並に犯則者の罰則を示せり

山奉行所規模帳仕次 山奉行所規模帳中にも森林盗伐其の他犯則者の罰則を定めたるも其条項甚だ粗略なりしを以て本規程を以て更に罰則を追加せり

山奉行所公事帳 山奉行以下杣山関係吏員採用法並に其権限等を規定せり
杣山法式仕次 杣山法式帳の条項を追加せり

杣山造林方法 杉、松、檜、竹其の他有用樹木の繁殖手入方法並に原野に造林をなすの方法を示したり
杣山惣杣 官庁が杣山を保護監督する理由並に各地杣山に対する将来の方針を示せり

琉球藩時代に於て、杣山に関して規定せる法令は前記七法を於て骨子とし（※後に『御指図控』を合せて林政八書と呼ばれた）、爾来当該官庁及び其の官吏は必要に応じて種々の令達を発せりも、殆ど右の法令に基きて其の実行の手續を示せるに過ぎざるを以て、茲に其の詳細を掲げず。実に琉球藩は杣山に関して周到なる法令を設け、併せて多数の官吏を置きて鋭意杣山の保護監督をなしたるが如き等、其の施設頗る観るべきもの少なからざるべし。

琉球藩は何故に此の如く杣山の保護をなしたるや、其の所謂杣山総計なる令達は明に其の理由を示したり曰く

一、御当国前代は人居僅七、八萬人罷居候付て国中之用木存儘相達為申由候其の以後漸々人居致繁榮最早二拾萬人に相及候故家普請船作事並諸道具等応人居相増候儀は案中之事候（中略）然処前代年山法式無之心儘に伐取焼明年増木絶に成行最早大材木甚有少く罷成尤も杣山も悉く致憔悴候付至極及御念遺去拾四年戊卯年山奉行被召立杣山法式並規模を以て委細被仰渡云々

一、衣食之儀は年に人々之働を以相調候故今より先拾萬人餘相重候共（中略）衣食に付ては不足無之積に候樹木之儀は作毛と相替数十年相経不申は材木之用に相立不申（中略）杣山方別て肝要に被仰渡御事候

一、御當国之儀渡唐船作事不仕は不相叶且又御本殿も大材木にて御普請不仕は不罷成儀に候然処杣山致憔悴大材木相絶候わば（中略）国土上下及困窮候議必定候右之御計得を以て永代之御為に杣山大切に被仰付御事に候と儘し（一）琉球国民の人口（中略）既に二十萬に増加したるが故に其の木

材の需要を満たす為に杣山の取締をなさざるべからず（二）衣食は自今尚人口増加するも欠乏の処なきも樹木は造殖後数十年にして始めて用材に供せらるるを以て特に杣山に注意させるべからず（三）支那航海の船舶を造る為に用ゆる木材並に藩庁の建築材は特に大材を要するものなるを以て之を保護する為杣山の取締をなさざるべからず等の数条件を以て杣山制度の大方針とせり。



「しまふとうば」ぬくとう 55



先日、村内の浜でウミガメの子ガメが砂中から出て帰海する観察会を行った。近くにいた幼児から母親を通して「子ガメはお母さんに会えるの？」との質問が来た。「お母さんカメには会えないよ」と返答すると「かわいそうだね」みたいな言葉が帰ってきた。親が近くにいる自分と、親には会えない子ガメとを対比して考えていたのだろうか。その時にふと、子どもの豊かな感性と生物の進化について考えさせられた。

進化の過程での高等生物だと自認する人間は子どもが一人前になるまで十数年面倒をみる。他の哺乳類も自立できるまで親がいないと生きていけない。鳥類の殆どが、親鳥が卵を温め、餌を与え、巣立ちまで面倒をみる。ウミガメ、トカゲ、ヘビ等の多くの爬虫類は砂や土中に産卵し、その後は親が面倒をみることはない。卵は砂・土中で自ら成長し、殻を破って孵化し、砂・土中から自ら這い出して天敵だらけの生物界で自らの力で生きていかねばならない。この生物界で生きにくい種ほど多くの卵を産むのだろう。ウミガメで言えば1回あたりタイマイは約160個、アカウミガメは約120個、アオウミガメ約110個を3～5回ほど産卵するので合計400～700個産卵する。このうち大人になるまで生き残るのは0.1～1%だと言われている。

高等生物といわれる哺乳類や鳥類は生まれた時から面倒をみる親がいないと生きてはいけない。爬虫類、魚類、昆虫等は卵の段階から自力で生きていくことができる。生き物が生きていく本当の強さとは何だろうか？と考えたりした三日月が西に落ちていく浜辺であった。カメはしまふとうばでは「ハーミー」であるが山、海がつくと「ウミガーミー」「ヤマガーミー」に少し変化する。

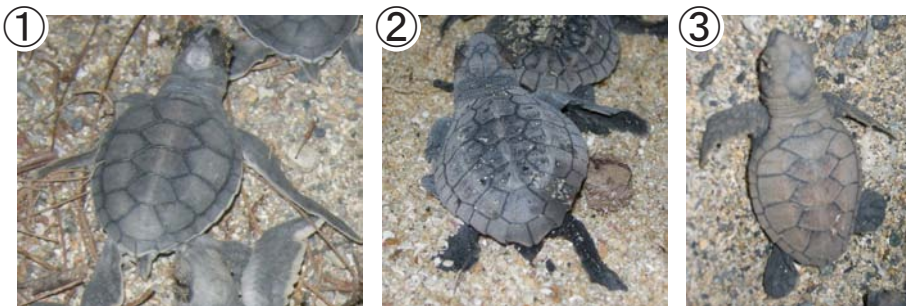
ウミガメ情報

NO	海岸名	上陸・産卵日	脱出(ふ化) 予想日数	脱出(ふ化) 予想月日	種類
8	塩屋	6月7日	57±3	8月3日	アカ
9	喜如嘉	6月12日	55±3	8月6日	〃
10	塩屋	6月19日	52±3	8月10日	〃
11	根路銘	7月2日	50±3	8月21日	アオ
12	喜如嘉	7月7日	50±3	8月26日	アカ
13	根路銘	7月11日	50±3	8月30日	〃

自力で生きていくことができる。生き物が生きていく本当の強さとは何だろうか？と考えたりした三日月が西に落ちていく浜辺であった。カメはしまふとうばでは「ハーミー」であるが山、海がつくと「ウミガーミー」「ヤマガーミー」に少し変化する。




今月の生きもの クイズ♪



今月はちょっと志向を変えて…写真のカメはふ化したばかりの子ガメです。大宜味村の浜にはアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種類のウミガメが産卵し、およそ60日後にふ化します。さて、①～③のウミガメは何のウミガメでしょうか？正解は来月号で発表します。

ヒント：アカ→甲羅の後ろ（尾の部分）がとがっている アオ→甲羅の中心にある六角形がそろばんの玉みたい タイマイ→甲羅の中心にある六角形模様がへこんだ感じ

8月の行事予定

- | | | |
|----------------------|---|-------------------------|
| 1日（土）国頭地区中体連①～2日 | 8月6日 | 16日（日）家庭の日・ファミリー読書 |
| 3日（月）区長会 |  | 17日（月）2学期始業式（園・小・中） |
| 8日（土）国頭地区中体連（予備日） | ハムの日 | 21日（金）少年を守る日 |
| 9日（日）国頭地区中体連②～10日 | | 22日（土）国頭郡バスケットボール大会～23日 |
| 10日（月）山の日 | | 23日（日）国頭郡バレーボール大会 |
| 15日（土）中テニス県知花杯個人～16日 | | 27日（木）定例教育委員会議 |
| 終戦記念日 おきなわ地域教育の日 | | 31日（月）旧盆（ウンケー） |